

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第109回放送の概要（2016年2月27日放送）

パーソナリティ

さくら
（安本久美子）
たろう
（佃 由晃）
なか
（中嶋邦弘）
かりん
（妹尾優香）
あな
（岸本幸恵）



ミキサー

門ちゃん
（門田成延）

相談役

わだかん
（和田幹司）

会計

小山俊則

（CM）神戸で乗って一番楽しいタクシーそれはペリーヌタクシーです。優しさと安全・安心を乗せて走ります。観光・ゼミ・研修・福祉輸送等乗れば心温まり、思わず笑みが浮かぶ、心を結び、出会いを作るタクシーです。本日は誇りと信頼の良質なサービスを提供する、ペリーヌタクシー様（電話078-521-0046）の御協力を頂きました。

（CM）尼崎で配電用部品を製造している、「オーテック」という会社ですが、そのかわり、2種類の米焼酎、「ダンディーズスマイル」と「親父のほほえみ」を販売しています。水割りでおいしく、お米のまろやかさを感じられる米焼酎です。身体を酸化させる原因となる活性酸素を、減少させ、老化予防、美容に有効な、「水素水」の販売も行っています。本日は、尼崎市の、オーテック様（電話06-6489-1314）の御協力を、頂きました。

1. ゲストコーナー（1）妹尾優香さん（64 陽会）、岸本幸恵さん（64 陽会）、

柏原かおりさん（72 陽会）、村上明貴子さん（80 陽会）、河野真紀さん（82 陽会）

本日は「ちょっと大人の女子会」というタイトルで、ミキサー以外の5人は全員女性でトーク番組に参加します。女子会の進行役はクララさんです。

2015年1月の第94回放送ゲスト大見昭子さん（アキさん）の提案で実現したものです。アキさんは長寿番組「アフタヌーンねね」のメンバーの一人で、本日はオブザーバーで参加しています。アキさんが女性だけの番組を提案したのは、子供の頃から農村や炭鉱では、全ての家事が嫁一人に押し付けられ、更に仕事まで手伝われ、結婚後はずっと女性が苦勞している姿を見てきた事、現在は大きく改善されたとはいえ、女性が不利な立場に置かれている状況が多く存在しているので、今の若い世代の女性がどのように認識しているのかを知りたいというのが発端です。日本ではいまだに家父長制のなごりの残る男社会であるのが現状です。今日のトークでは、今後男女関わらず生きやすい世の中になっていくためには何が変

わるべきか、変えていくべきかのアイデアが出ればいいなと願っています。

はじめに参加者の自己紹介をします。

かりん：50代、既婚、今は専業主婦、32歳独身の息子、30歳既婚の娘

あな：50代、独身、専門職をしていたが親の介護があり、今はパートの事務職

あっこ：40代、既婚、司法書士、小6の息子、小4の娘

のぞみ：40代、既婚、講師、大学生の息子

クララ：30代、既婚、家事育児主任、小4の娘、小2の息子、年中の娘

「女性活用」という言葉について、家事、育児をこれまで通り担ったまま、子供を更に産め、働けと言われているだけの印象がある。この言葉について；

(あな) 女性の管理職が増えるのはいいと思うが、産めよ、働けよの両方が出来るはずはない。男性の協力なしには絶対無理と思う。女性の活用は女性だけに求めるのではなく、男性にも育休の取得を含め男性の生き方、働き方を見直す必要がある。

(クララ) 子育てには父親の手が必要と思っても、朝早く出勤し残業で帰宅も遅いという状況では、夜泣きで夜抱っこしてほしいが、翌朝早く出勤することを考えると頼ると可哀そうに思う。

(あっこ) 女性活用と聞くと、これ以上活用されないといけないのか、女性も男性がこれまでやってきたような、つらい働きをしなさいよとしか聞こえない。休日出勤もいとわず、長時間の残業をし、手当がつかなくても頑張り、退社後は同僚と飲み会に行くなど、男性並みにやることを要求されているとしか感じない。女性がこれまで無償で担ってきた介護、育児、家事についてはどうなるのかについては言及されていない。これでは男性も女性もつらくなり誰も得をしない感じに受け取れる。

(クララ) 女性がこれまで無償で担ってきたことに関連して、女性の労働力の現状を表すM字カーブ（女性の年齢別就業者の割合）は、日本では育児期の30代で離職するので就業者が減少し、M字型になる。M字型の底上げをしなければならないというが、無償で子育てをしている部分は余力があるという男性の発想は理解できない。男性も一緒に底上げに取り組むと言うならよい。

(のぞみ) 育児、家事を「手伝う」という言い方に違和感がある。女性がするのが前提の考えである。

(クララ) 夜泣き、一緒に風呂に入るなど男性にやってもらいたいと思っても、子どもは母親を求める。

(のぞみ) 子どもが泣いても父親がやるまで待たないといけない。

(あっこ) 夫はすごく子煩悩で、子育てをしたくて仕方がなかった。しかし仕事が忙しくて、土日も時間がない場合は出来ない時があった。学級懇談、授業参観などに行けないことがあった。男性にもやりた



い人は沢山いるのではないか。

(のぞみ) 同じ会社員の共働きの場合どちらが休むかが問題になる。

(あっこ) 両方が正社員で有休がなくどちらが休むとなった場合、押し付け合いになる場合もある。

(クララ) インフルエンザで急に学級閉鎖になった場合、家で子どもを見るのはどっち？という場合がある。

(のぞみ) 講師の仕事は休めないのに、管理職の父親の方が休みやすい年齢の場合は調整できると思う。

(かりん) 若い子育て中の世代は調整はむずかしい。

(クララ) 子どもの事を思うと、融通がつかない仕事に従事することは出来ないと考え、小学校の先生をしたいという夢は早くから諦めた。

(かりん) 男性にはそのような選択はないように思う。自由業はともかく会社勤めでは難しい。女性は仕事の選択から考えなければならないのか。

(クララ) お母さんをする事を優先したかったので、時間を選べる仕事、スキル取得の道を選んだ。今は女性がバリバリ働き、主夫をしている男性も増えているのではないかな？

(あっこ) 女性は結婚する時自分より上の人を選ぶ願望がある。だから最初から主夫を選ぶ人は少ないのではないかな？

(クララ) 朝ドラで娘が母親に、男性は自分より出来過ぎている女性を嫌がると言っていた。今も明治の頃と意識はあまり変わっていないということか。

(かりん) 芸能人は別で、女性は経済力で男性を選んでいるのではないと思う。一般人は経済力を重視するので、自然に育児や家事は女性が受け持つことを受け入れてきたのではないかな？

(のぞみ) 母親がずっとフルタイムで働いていたこともあり、育児、家事を女性の仕事とは思ったことがなかった。今の講師の仕事は外国の人と接することが多いので、男性の仕事、女性の仕事と分ける考え方には違和感を感じる。3 姉妹だったので女の子、男の子という性差を感じなかった。



2. ミュージック：365日の紙飛行機 AKB48

毎日楽しみに聞いている曲です。お父さんに愛され、廻りの男性たちにも愛され、大きな仕事をしている「あさ」が私（クララ）の憧れです。

NHK朝の連続TVドラマ「あさが来た」のテーマソングです。



3. ゲストコーナ (2)

(クララ) 家事を「手伝ってもらう」という感覚の違いについて、息子が1年生の時に「お家のお手伝い」の宿題が出て、洗濯、食器洗いの他にトイレ掃除があり、男の子にトイレ掃除！えーと思い、先生に凄い宿題ですね、抵抗があったのですと個別懇談で言ったことがある。子どもの頃からトイレトーパーをお父さんに持たしてはいけない、台所に男は入らなくてよいとか言われていた。母親は親が仕事をしていたので、4年生から自分で夕食を作っていたので友達と遊べずつらかったのに、自分の子にはさせたくないと思って、家の用事は子どもにさせず勉強しなさいと言っていた。トイレ掃除は母親がする

ものと認識していた。

(あっこ) 自分で自分を苦しめている所はないのか。

(クラウ) 母親がやってきたことで普通と思ってきたので、逆に出来ないことを嫌に感じる。

(かりん) 当たり前と思っていることは、社会や家庭の環境の中で身にしみついたもの、刷りこみである。

(あな) 男厨房に入らずという家庭で、父親は「女の仕事やろ」が口癖だった。母親が体調を崩した時は、自分の洗濯物は自分でたたもうと私が父親を教育した。ゴミ捨てもリハビリだと思ってやってと言って頼んだ。母親は早く結婚するのが女の幸せと考える人で、大学に行く必要はない、勉強をしていると怒られ、家事を手伝えと言われた。

(かりん) 宿題をしても、家の用事があると用事を優先するように言われ、弟は家事を一切しなかった。年子の弟の世話をしていた。廻りの家庭も皆そうであった。

(あな) 兄は刷りこみがなく、大人になってから何でも出来た人であった。

(のぞみ) クラウさんの息子さんは結局トイレ掃除はしたのか。

(クラウ) お姉ちゃんは宿題がなかったのでもうに出来ないが、息子は年末の大掃除を皆でやった時にトイレ掃除に手を挙げた。

(のぞみ) 子どもに対しては手伝ってではなく、一緒にやろうと言っている。子どもがやりたいと言った時はやってみてと言うことが大事。

(クラウ) 手伝ってくれる息子に「いい子やね」、お姉ちゃんには「結婚する時はこんな男子を見つけな」といけないよ」と言っている。夫のお母さんは少しでも食事の作れる息子にしようとしたが、お父さんはそんなことさせるなと言ったようだ。

(あっこ) 息子、娘にそのようなことを教えているつもりはなく、同じようにしているつもりだが、潜在意識まではわからない。

(クラウ) 男の子だから泣いてはいけないという言葉が出たことはないか。

(あっこ) 今日の5人のメンバーの中で一番古い考えかな。

(かりん) 子育てで男だから女だからと言ったことは一度もない。

(のぞみ) 子どもは息子一人のため比べようがなく、自分自身も含め他人と比べることはしない。

(クラウ) 女性同士は、互いに比べることが多いのではないか。そのような噂は聞かないですか。

(かりん) 自分と合う人が友達なので、そのような事はおこらない。会社、関係しているグループなどの場合は起り得る。

(クラウ) ママ友、育休が終わって復職した時に、独身者から子育てで早く帰宅することにクレームがあるのではないか。

(かりん) 会社が決めたルールに従って早く帰宅することに対し、仕事のしわ寄せが独身の同僚に転嫁されると言うクレームを聞いたことがある。



(あな) 仕事をしてきた者として、人と関わる仕事（看護師など）は別として、仕事の時間は合理化でもっと短縮できる。長時間働いている人がめ一杯仕事をしているわけではなく、会社が合理化を指示すれば短縮できる。ワークシェアをして多くの人に働いてもらい、フレックスタイムを導入すれば、男性が子育てなどに時間が割けるようになる。政府はこのような条件を整えてから、女性活用の話に入るべき。

(のぞみ) 男性、管理職の意識の改革が一番大事。そうすればシステムも変わってくる。

(クララ) 今は男性も可哀そうな面がある。残業など働き方はそのままイクメンもしなければならない。

(かりん) 正社員が減り、責任が増え、そのような状況で育児、家事などが増えてくる。

(のぞみ) 外国人に日本語を教えているので、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドなどの北欧諸国及びアジアの人にも接しているが、日本人が一番つらそうに感じる。ノルウェーの人を見ていると、育児、家事などの半分は男性と明確に意識している。子どもの迎えはお母さんと言う意識は全くない。早く行けるから自分が行くのが当然と考え、半々の場合でも男性がまず手を挙げる。

(クララ) 日本のサラリーマンの男子にそのような人はいないのではないかと。子どもが病気になり迎えが必要になっても、仕事があるから帰れないと言う。自分はそのような状況を想定していたので、自分が迎えに行けるような状態にしておく道を選んだ。

(あな) 仮に日本人が夫婦間で対処法を決めていても、病気の子どもの迎えに行った後の男性の育児力は乏しいと思われる。育休を義務として取得し、育児力の向上を図ってほしい。

(のぞみ) ノルウェーでは全く一緒にやっているし、仕事も一緒に減らしている。

(かりん) 子どもの頃家庭科の時間があったが、男子は技術の時間であった。今の子どもたちは家庭科の時間がある。

(クララ) 本日の参加メンバーは、これまでの生き方、育ち方が違い、認識を新たにしている面を感じているのではないのでしょうか。今後シリーズ化して議論を深めていきたいと思います。

4. 地域瓦版

新長田駅前鉄人広場・商店街で3月5日（土）、6日（日）、10時～18時、第5回LOVEフェス3.11「神戸から東北に笑顔のかけ橋を」が開催されます。

3月31日（木）、10時30分～12時30分、田辺真人先生の珈琲文化神戸発の講演、エキストラ珈琲の小室こゆみさんの珈琲のお話と実演が、ミント神戸17階、神戸新聞文化センターで開催されます。参加費は2484円です。



ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>